

【コピー、転送、回覧など多くの人にお渡しください。各団体各地の活動をお知らせ下さい】

メールニュース

No.21-040
2021年 7月 16日

安保破棄中央実行委員会
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2-11-13
TEL03-3264-4764 FAX03-3264-4765

安保中央

オンライン含めた常任幹事会 総選挙へ オンライン全国学習交流会(8/28) 玉城知事 辺野古設計変更不承認の場合、宣伝・要請を

安保破棄中央実行委員会は 7 月 15 日、全労連会館でオンラインを含めた常任幹事会を開きました。

東森英男事務局長は報告で、新型コロナ対策で西村康稔・経済再生担当相が飲食業に圧力をかけるなど、政治的に行き詰まりに直面している中での東京五輪・パラリンピックを強行開催する菅政権を批判。土地利用規制法が国会審議を通じて、法案に立法事実なく強行成立した経過など説明・批判し、法の具体化・発動を許さないとりくみが求められていると訴えました。

また東森氏は、辺野古新基地建設の設計変更申請への沖縄県の玉城知事の不承認決定が 8 月上旬に出されることが予測されと述べ、不承認決定に対する要請や連帯行動などを提起。このような中で辺野古サンゴ訴訟の最高裁判決が 7 日に出されたことに、沖縄県の上告棄却を批判。2 人の裁判官が反対意見を述べたことは今後のたたかいに注目される、と述べました。

当面のとりくみでは、辺野古新基地の設計変更申請への玉城知事の不許可決定が出された場合、首相に新基地断



断念を迫る要請や宣伝を行うこと、オスプレイ配備撤回に向けた全国統一署名運動（別記）、土地利用規制法廃止に向けて自治体への申し入れや意見書採択のとりくみ、総選挙に向けたオンラインによる全国学習会（8月28日）などが確認されました。

討論では、加盟団体や各地でのオスプレイ配備反対や辺野古遺骨土砂の問題、総選挙へのとりくみなどが報告されました。常幹には 11 団体 14 名が参加。



オスプレイ配備撤回の全国署名用紙の注文は、安保破棄中央実行委員会までお問い合わせください。署名用紙は 1 枚 1 円です。（ただし署名用紙の送料は、ご負担いただきます）



日本のどこにもオスプレイはいらない

【呼びかけ団体】

- 安保破棄中央実行委員会 電話：03-3264-4764
- 安保廃棄・くらしと民主主義を守る沖縄統一行動連絡会 電話：098-998-8172
- オスプレイ反対東京連絡会 電話：03-5927-1486 (安保破棄東京実行委員会)
- 安保廃棄千葉県実行委員会 電話：043-441-5093
- オスプレイ配備反対佐賀県連絡会 電話：0952-25-5022 (佐賀県労連)

【送付先】 安保破棄中央実行委員会 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2-11-13

オスプレイの飛行中止と配備撤回を求める署名

衆議院議員 様
参議院議員 様

【請願趣旨】

2012年から沖縄の普天間基地に米海兵隊のMV22オスプレイ24機が配備され、県内で住居上空・低空での危険な飛行を繰り返すとともに、全国で日米共同訓練に参加しています。

2018年から東京の米軍横田基地に空軍の特殊作戦用のCV22オスプレイの配備が始まり、2024までに10機体制がはらわされています。ここでは、住民に開口に向けて飛行し、住居地付近でホバリングを行なうなど、住民を脅かしています。

2018年からは千葉県木更津市で日米共用のオスプレイ整備が始まり、2020年からは陸上自衛隊の購入したオスプレイの「暫定配備」が実行され、夜間飛行訓練などを行ない、最終的には17機が常駐しようとしています。

3000万人が暮らす日本に合わせ数十機のオスプレイが飛行する異常な事態となっています。

一方、日本海軍兵隊のオスプレイ機が墜落した際の佐賀県佐賀市は配備に反対してたたかっています。

2018年には、沖縄県名護市で米海兵隊オスプレイの墜落事故が起き、翌2017年には同じ普天間基地所属のオスプレイがオーストラリアで訓練中に墜落して、3人が死亡し、重傷者も出ました。その後も各地で不時着などを繰り返しており、多くの住民がオスプレイに恐怖を抱いています。

オスプレイは1991年以降、11回もの重大事故を起こし、死者41名を出している構造的不安全機です。日本でのどこにもオスプレイはいりません。

私たちは、日本政府に下記事項の実現を強く求めます。

【請願項目】

- 日本でのオスプレイの飛行中止とオスプレイ参加の日米共同訓練の中止
- 沖縄・普天間基地へのオスプレイ配備の撤回
- 千葉・木更津への陸上自衛隊オスプレイの配備撤回と日米共用のオスプレイ整備工場の撤去
- 東京・横田基地へのCV22オスプレイの10機体制の中止と配備撤回
- 佐賀空港への陸上自衛隊オスプレイ配備計画の中止

氏名	住所

【送付先】 安保破棄中央実行委員会 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2-11-13

陸自オスプレイ 飛行拡大、住民脅かす

防衛省は 7 月 13 日、千葉県木更津市に陸自 V-22 オスプレイの今後の運用について説明しました。

東京新聞 (7/14 付) は、「防衛省北関東防衛局から 8 月以降、県内外の他の飛行場へ飛行し、射撃訓練などを実施する方向で検討しているとの説明を受けたと発表した。県内では館山市の海上自衛隊館山航空基地を使う予定で、木更津駐屯地以外の飛行場で訓練を行うのは配備後初めてとなる。千葉県外にも飛行するとみられるが、北関東防衛局などは関係自治体との調整が終わっていないとして、県外の飛行先を明らかにしていない。陸自のオスプレイはこれまで、木更津駐屯地周辺の海上を中心に飛行訓練をしていた」と報じています。

米軍オスプレイが全国で危険な低空飛行訓練などを行っています。陸自オスプレイによる県内外での訓練が始まれば、オスプレイの飛行拡大で住民生活が一層脅かされます。日本に危険な欠陥オスプレイはどこにもありません。

安保中央 7 月宣伝 7 月 21 日 (水) 12 時～新宿駅西口